

**算 数 通 信**

テーマ：「個別最適な学び」と「一斉授業」

私は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」は、**一斉授業と関係する**と考えます。つまり、自由進度学習は一斉授業のレベルに影響を受けるのではないかということです。そう考えると、「個別最適な学び」への取組と共に、一斉授業のレベルを上げることも大事だと考えます。

## ○ 「個別最適な学び」に取り組んでみましょう。

学習形態の代表が個別学習と自由進度学習です。これらの学習を一部でも実践してみることで、「個別最適な学び」の可能性や自分の授業のあり方を見直す機会にもなります。他県の先生の実践に、単元の学習のまとめ(2時間相当)を単元末自由進度学習として行ったものもありました。いろいろできるなと感心します。

「個別最適な学び」は、「**指導の個別化**」と「**学習の個性化**」の両面を考えますが、この先生の実践は、「**指導の個別化**」の**実践**です。一方、問題を発展させる学習活動が「**学習の個性化**」です。一斉授業でも練習問題の代わりに問題づくりの活動を入れてみると、子どもたちが喜んで取り組んでくれます。そして、そうした学習の中で、**新たな発見**をすることがあります。例えば、たし算のひっ算(2年生)で「位をそろえてひっ算の式をかくこと」と「一の位からたし算をすること」を大事な考え方として習得した子どもたちの中に、例えば、このような発展問題を考え出す子が出てきます。そして、
$$\begin{array}{r} 23456789012 \\ +65432109876 \\ \hline \end{array}$$
でも、習ったことを使えることを発見します。これが、算数科の特質「既習事項を使えば、新たな知識をつくり出す」ということです。

○ 「個別最適な学び」は、**教材研究が極めて大事**だと思います。特に、学習内容と子ども実態から、学習のつまずきを予想し、適した**学習支援になる物を準備**しなければなりません。

○ 「個別最適な学び」は、「**協働的な学び**」に**支えられている**と考えます。「協働的な学び」のレベルが、学びの質も左右すると思われます。一斉授業でも同様ですね。だから、学びの中で、**子どもたちの必要に応じた話し合いや相談**が制限されているなら、「個別最適な学び」にはしっかりブレーキがかかります。また、子どもの主体性や気づきを失う**教師主導の授業**も「個別最適な学び」が求める「**能動的な学び手を育てる**」とは離れます。学びへの気づきや深まりは、人と自由に話し合いや相談ができる環境にあることが大前提です。たくさん問題をさせる**プリント学習**を習慣的に行うことも、今一度考えた方がよいことだと思っています。子どもたちにとっては「**ノルマ感**」が強くなると思います。また、「先生、次は何をすればいいのですか?」と受け身の子どもを育てて

いるような気がします。実際、子どもたちの姿を見ていると、プリント学習の前・中盤はほとんど「**弧学**」をしています。一生懸命取り組んでいます。が、「**能動的な学びの姿**」とは言えないのではないのでしょうか。

- 「**個別最適な学び**」「**協働的な学び**」は、「**一斉授業**」の質に支えられると考えます。一斉授業については、第24号において、「**展開する授業**」と「**引っ張る授業**」を提案しました。そして、以下のような表に整理してお示しました。

展開する授業	引っ張る授業
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>子どもの発言を使って、授業展開を行っている。</b></li> <li>・ <b>まとめを子どもが発言する。複数の子どもの発言を使ってまとめを行っている。</b></li> <li>・ <b>複数の発言を求める。</b></li> <li>・ <b>発言する子が広がる。</b></li> <li>・ <b>子どもがその時間の大事なことばを発するまで、次に行かない。</b></li> <li>・ <b>考える時間（個人の活動時間）が確保されている。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>子どもが説明に使った言葉が、教師により変えて返されたり、板書されたりする。</b></li> <li>・ <b>まとめでは、子どもの発した単語に、先生が文章を加えてまとめとすることが多い。</b></li> <li>・ <b>少数の発言（場合によっては一人の発言）で、授業が進む。</b></li> <li>・ <b>発言する子どもが決まっている。指名する順が、毎時間変わらないことがある。</b></li> <li>・ <b>次への展開を急ぐ傾向にある。</b></li> <li>・ <b>考える時間が、1分、3分と短い。</b></li> </ul>

**大事だ**と思う2つのこと。一つは、「**子どもの発言を使って、授業展開を行う**」ことだと思います。教師の「**発問**」と子どもとのやりとりを大切にすることと言えます。どの教科でも、教師が発問したことに対して児童が答えてくれたことは、たとえ教師の意に反する回答であっても、**短い言葉で、板書**するのです。あとは**子どもたちが検討**します。

もう一つは、**発言しやすい学級**を育てているかということです。

- 算数の授業で言うと、「**数学的な見方・考え方を働かせた授業**」に取り組むことです。それは、**学級全体に「算数の学び方」を学ばせていること**になります。**子どもから引き出した「数学的な見方・考え方」**を言葉によって説明させる授業を行うことだと考えます。

また、先生の力を借りなくとも、**自分たちで解けたという「実感」**を何度も積み上げることだと思います。実際、授業の終わりに「**自分たちでできた**」という2年生の児童の声もありました。実感から自然に発した言葉でした。授業者にとっては、最高の感想ではないのでしょうか。